

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ILIS CLUB泉大津		公表日		2026年4月1日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		5	3
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		6	2	職員数は安定しており、利用児童が安全に活動に参加できるように人員配置を行っています。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		5	3	ロッカー、机、椅子は定位置に配置し、分かりやすい環境作りを目指しています。	トイレが家庭用の広さしかないため、排泄介助の際に狭さを感じる事がありますが、トイレ壁面を飾るなどし、明るい雰囲気になるように努めています。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		7	1	日々、清掃と安全点検をしています。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		8		2階に個室があるので、午睡の際や少人数で過ごす時などに活用しています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		7	1	朝終礼で共有しています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		6	2	職員へ結果を共有しご意見いただいた箇所は速やかに改善に努めています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		8		事業所会議で定期的に意見交流をする機会を作っています。また、面談も適時実施しています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			8		必要があれば実施を検討します。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		8		事例検討研修、チーム支援研修、新入社員研修など社内の研修が充実しています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		8		連絡帳やSNS、おたよりなどで日々お伝えしています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。		8		対面で保護者様と面談を行い、ニーズを把握し計画を作成しています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		8		検討会議を実施し職員の意見を反映した計画書作りを行っています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		7	1	計画書に沿って日々の支援を行っています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		6	2	活動報告や議事録、引継ぎシートなど共通の書式を使用し記録、共有をしています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		8		児発管が計画書に具体的に記入しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		8		朝礼時に職員で話し合いながら立案しています。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		月毎に活動カレンダーを作成し、プログラムが固定化しないように工夫しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		保護者ニーズに応じて個別療育、集団療育、講座が選べるようになっています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		朝礼時に職員で話し合い、活動内容、役割分担を行うようになっています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		終礼時にふりかえりを行い気づきを共有できるようにしています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		活動報告を日々作成し記録している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	1	6か月に1度保護者様と面談を行い、計画の見直しをしています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		児発管、リーダーを中心に参加しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1	学校園や市役所、社会福祉協議会、保健センターと情報共有をしています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		保護者様から依頼を受け、園訪問を実施し情報の共有を行っています	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		保護者様から依頼を受け、就学支援引継ぎシートを作成し、学校へ引継ぎを行っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8		児童発達支援センターと連携をとっており、必要に応じて訪問をしています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	4	図書館や介護施設へでかけ地域の方とかわかれるようになっています。	園との交流はできていませんので、今後前向きに検討します。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		連絡帳や送迎時にご様子の共有をしています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	1	親の会や療育参観を実施し、お子様とのかかわり方をお伝えする機会にしています。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時にしています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		保護者様やお子様のニーズを計画書へ取り入れています。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		計画書の同意はいただいております。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		ご要望がある場合に実施しています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		月に4回、親の会の機会を作り交流や情報交換の場になるようにしています。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		ご相談やご要望があった場合は児発管やMGが速やかに対応しています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		定期的にSNS、おたよりなどで事業所のご様子やイベント紹介などを行っています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		鍵付きロッカーに保管し、必ず施錠して帰るようにしています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		口頭指示だけでなく、必要に応じて文字や絵カードを使用しコミュニケーションをとっています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	5	地域イベントへ参加したり、公園で地域の人とかかわりながら遊ぶなどし、交流しています。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	2	定期的に研修、訓練を実施しています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	2	定期的に研修、訓練を実施しています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		でんかん発作については発作シートを作成し、発作の際は記入、保護者様への共有を行っています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		アレルギー表を作成し、いつでも確認できるように掲示しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	2	定期的に研修、訓練を実施しています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	2	契約時に避難場所についてお伝えしています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリハットを所定の様式で記入し、全事業所の内容を確認し繰り返さないように努めています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		定期的に研修受け、各自の行いを振りかえる機会にしています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		身体拘束を行わなくてもいいような支援、環境構成を目指していますので、計画書へ記載はしていません。		